

別府のサテライト アスコンで開所式

大林道路、大分県内初 のサテライトプラント

大林道路は、大分県別府市の別府サテライトアスコンⅡ写真Ⅱで開所式を開いた。同施設では、大分市にある同社大分アスファルト混合所で製造したアスファルト合材を貯蔵・販売するほか、敷地内で蒼生産業（大分市、瀧野克彦社長）が中間処理業と再生路盤材の販売を運営する。合材を貯蔵するサテライトプラントとしては県内初の施設となっている。

同施設は30トと50トの合材サイロ各1基を備えており、複数のアスファルト混合物を貯蔵・販売することが可能だ。サイロには別府市の協力を得て、同市マスコットキャラク



ターの「べっぴん」をデザインした。設備の設計施工は田中鉄工が担当した。また、隣接地では骨材を販売する斉藤土木、生コンクリートを製造・販売する別府中央生コンクリートが操業している。

開所式であいさつに立った斉藤克巳大林道路代表取締役専務執行役員は「別府サテライトアスコンの開業で、大分空港から別府市内に至るエリアの中で合材・路盤材・廃材受入の3点を取り扱うことができる施設が初めて誕生した

ことになる。隣接地で操業する各社とも力を合わせ、この地域が別府湾沿岸の総合的な舗装材料の提供拠点となることを期待する」と語った。

